

研究の全体構想

児童の実態

- 仲間のがんばりやよさに気付き、互いに伝え合い、認め合う姿が定着しつつある。
- 役割や仕事に対して意欲をもって取り組む素直さと行動力がある。
- △自分たちでよりよい集団を創り上げていこうとする主体的な姿に弱さがみられる。
- △がんばりやよさを自信につなげ、自己有用感を抱き、活動する姿に課題がある。

学校の教育目標

考える子
心豊かな子
元気な子

目指す学校像

いきいき揖斐小
居心地のよい学校

学校の方針と重点

- ・児童の主体性を引き出す教育活動を推進し、資質・能力を育む教育課程の実現を図る。
- ・互いを認め、高め合う集団作りを推進し、望ましい人間関係の構築を目指す。
- ・安心安全な教育環境を整備し、組織的な危機管理体制の確立により、児童の健やかな成長を支え、温かな居場所を作る。

研究主題

自他のよさを認め合い、主体的によりよい生活を創り上げる子の育成
～SWPBSによる学校、学級づくり～

願う子どもの姿

互いの考えやよさを認め合い、主体的に判断、選択、決定して実行することで、自分や仲間の成長やよさを実感し、よりよい生活を創り上げることができる子

研究仮説

SWPBSの考え方を核とした年間指導計画に基づき、「望ましい行動表」の実現に向けた全校や学級の取組の場を設定し、計画、実践、評価の手立てを工夫すれば、仲間や自分のよさを認め、主体的に考え、行動することで、よりよい生活を創り上げる子を育成することができる。

研究内容

1 指導計画の工夫改善

- ①SWPBS年間指導計画の作成、見直し
- ②「望ましい行動表」の実現に向けた取組の推進

2 具体的な手立ての工夫改善

- ①「望ましい行動」を引き出すための手立ての工夫
- ②自己有用感を高めるための振り返りの工夫